



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学院受験生へ向けて : 北大・IMCTSでの学び
Author(s)	大城, あずさ
Citation	Sauvage : 北海道大学国際広報メディア・観光学院院生論集, 22, 8-11
Issue Date	2026-03-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99261
Type	other
File Information	Sauvage22_8.pdf



学院受験生へ向けて ～北大・IMCTSでの学び～

——自己紹介をお願いします。

国際広報メディア・観光学院修士1年の大城あずさです。学部時代は東京の女子大でまちづくりや観光について学んでいました。研究領域は先住民族観光で、特に北欧の先住民族サーミの観光について研究しています。



——進学しようと思ったきっかけを教えてください。

子どもの頃から漠然と専門を持った人間になりたいと考えており、大学進学時点で既に大学院に進む前提だったので、就活を一切行ってきました。北大への受験を決めたのは学部4年の春頃です。学部では、元々まちづくりのゼミに入っていましたが、自分の問題意識には観光学の方が合っているのではないかと感じ、そこから観光学を学べる大学院を探しました。

——北大の国際広報メディア・観光学院を選んだ決め手を教えてください。

他大学からの進学だったので、大学院しかないという点が自分に合っているのではないかと感じました。開講されている授業の幅が広く、TLLPや新渡戸カレッジなど様々なプログラムが提供されている点にも魅力を感じました。また、北大には、北極域研究センターやアイヌ・先住民研究センターがあり、調査地であるフィンランドとの関わりも深く、自分の研究を進める上で最適な環境だと感じたのが一番大きな決め手となりました。

——進学にあたって不安だったことはありますか。

外部からの受験だったので、手に入る情報が少なかったことが一番の懸念点でした。ホームページに載っている情報と入試説明会で得られた情報だけでは学院の様子が掴めず、進学後学院に馴染めるのか不安がありました。加えて、前期試験は第一次選考の段階で不合格になってしまい、そのまま後期試験を受けても合格することができるのか分からず、合格発表の瞬間まで先行き不透明でした。

——受験にあたってどのような準備をしましたか。

学部3年の春休みを利用して『観光学入門』や『基礎概念から学ぶ観光人類学』などで、基本的な用語を説明できるように勉強しました。また、それまであまり履修していなかった観光学や文化人類学の科目を4年次に履修しました。これらは筆記試験そのものというよりも研究計画書の作成や進学後の役に立ったと感じています。

私は、研究計画を立てるのが遅く、受験前に教員にコンタクトを取らなかったのですが、取っていた方が安心だったと思います。研究計画書や活動レポートは指導教員や身内に添削を依頼しました。

——どのような研究をしているのか教えてください。

研究領域は先住民族観光で、特に北欧の先住民族サーミの観光について研究しています。フィンランドのサーミ議会による倫理ガイドラインを事例に、先住民族コミュニティがどのように文化の盗用や誤用といった先住民族観光の負の側面に対抗しようとしているのかという点について研究を進めています。指導教員が指導言語を英語に限定していることに加え、研究テーマの性質から、修士論文を英語で執筆する予定になっています。

——大学院生としての生活について教えてください。

前期はとにかく取らなければならない授業がたくさんあるため、週に4日は朝から夜まで大学に

いる生活でした。金曜日は授業がない日だったので、旅行や帰省の予定が立てやすかったです。前期は履修した大学院共通科目の都合で6月末から集中講義も加わったため、夏タームは目が回るような忙しさでした。一方で後期は授業数も多くなく、スケジュールにはゆとりがありました。と言っても、授業の課題やプロジェクト、研究関連の事柄などやることは多く、余裕があるわけではありませんでした。

表 1 前期時間割

	月	火	水	木	金
1					
2	Tourist Attractions		観光創造論演習	国際開発論演習	
3		観光社会学演習			
4				フィンランド語C1	
5	Search Strategies, Resource Organization, Management & Sustainability			社会調査法（春）	
6	北海道観光研究（夏）	メディア文化と観光（夏）	地域研究（春）国際交流と地域文化（夏）		

表 2 後期時間割

	月	火	水	木	金
1					
2	Film and Tourism	コミュニティ・ベースド・ツーリズム論	Tourism, Media and Thoughts		
3				Creative Tourism	
4				音楽ツーリズム論	
5		観光人類学演習		新渡戸カレッジプログラム	
6				新渡戸カレッジプログラム	

授業時間の間は研究室で課題や予習を行っています。学院ではランダムに振り分けられた修士研究室と博士研究室があり、希望すれば自分の鍵がかけられる収納付きの机が与えられます。学部時代は研究室のように決まった居場所がなかったので、自分流に飾り付けたり本を置いたりした研究室の机がお気に入りです。大学にいる時は、ここが談話室で過ごす事が多いです。談話室はテレビやソファがある部屋で、レンジやIHヒーターがあり簡単な調理ができます。休憩時間やランチの時間を過ごす人も多く、交流会や打ち上げなどもここで行われます。

——北海道での生活で大変なことはありますか。

一番心配だったことは冬を乗り切れるかということでしたが、寒さや雪道は案外すぐに慣れて大変に思うことはありません。毎日雪かきや除雪をしてくださる方々がいるおかげで不便なく過ごせています。雪のある暮らしは新鮮で、未だに毎日感動しています。ただ、交通機関は雪の影響を受けやすいので、大学のできるだけ近くに住めると便利だと思います。



——国際広報メディア・観光学院を選んでよかったことはありますか。

学院最大の魅力は多様性のある環境だと思います。世界各地から集まった教員や学生たちは皆それぞれに異なるバックグラウンドを持っています。学院の人々と机を並べて話をする事で自分の世界が日々広がっていくのを実感しています。

また、国際経験のチャンスが多いことも魅力の一つです。私は大学院共通科目を二つ取っており、その一つは One program for Global Goals (OGGs) という科目です。私は北方圏の地域デザインという NJE3 科目を履修し、フィンランド・スウェーデンでの実習に参加しました。他学院の学生と交流する機会はあまりないので、普段関わることのない人びとと話しをすることが出来たのはいい経験になりました。OGGs は今年度で学生募集を停止するそうですが、科目は来年度以降も開講するようなのでぜひ履修してみてください。

——進学前後でギャップはありましたか。

進学前はとにかく周囲と馴染めるかということが不安でした。入試や入学式の時点では研究生出身の人たちが仲良さげに見え、出遅れてしまったと不安を覚えていましたが、入学式の後に学内誌・ソバージュ編集委員会の先輩方が声をかけてくださったことや、先輩方が開いてくださった交流会のおかげですぐに馴染むことができました。この学院には、素晴らしい先輩方や先生方がいらっしやり、アドバイスをもらったり相談に乗ってもらったりと親切に接してくださいます。



OGGs 実習での一枚



クリスマス会の様子

また、ソバージュ研究会のイベントも定期的に開催されており、勉強会やクリスマス会など様々な人と知り合う機会があります。過去の自分にはあまり心配しないでと伝えたいです。

——おすすめの授業について教えてください。

個人的には Tourist Attractions や Film and Tourism が課題の形式がインフォグラフィックだったり映画だったり今までにないタイプの授業だったのでお気に入りなのですが残念ながら 2026 年度は開講されない模様です。観光社会学演習や観光人類学演習などは文献を読む機会になり、非常に勉強になるので、特に学部時代観光学部ではなかった人たちには履修をおすすめします。また、コミュニティ・ベースド・ツーリズム論演習のように宿泊を伴うフィールドワークのある授業は勉強になるのはもちろん、学院の人と交流を深める機会でもあります。

他にも、余裕があるのならば、大学院共通科目の履修を強くおすすめします。特に薦めたいのが新渡戸カレッジになります。他学院の学生と共に、英語「を」ではなく、英語「で」課題解決能力を身につける授業になっています。来年度以降も絶賛募集中なのでぜひ履修してみてください。

——受験生へのアドバイスをお願いします。

受験を迷っている方にはぜひとも挑戦してみることをおすすめしたいです。学院に集まる人は皆それぞれの経験や専門があり、そうした人たちと切磋琢磨できる環境に身を置くことは一生モノの経験になると思います。

そして、特に後期入試を受験する道外の方にお伝えしたいのですが、受験の二日前には札幌に入るスケジュールを組んでください。私は前日の午後に着くつもりで飛行機を取った所、雪のために飛行機が中々飛ばず大変な目に遭いました。前日の深夜に辛うじてたどり着くことが出来ましたが、飛行機が飛ぶという判断が出るまで不安で不安で仕方なかったです。そうならないように、雪まつりシーズンでホテルの値段が上がっているかもしれませんが、二日前に到着するようにスケジュールを組むことをおすすめします。また、無理に革靴やパンプスで来ることはおすすめしません。私は念のためパンプスを持参しましたが履き替えるタイミングがなく、結局ブーツのまま面接に挑みました。

備えあれば患いなし、ということで万全な準備を整えて入試に挑んでももらえればと思います。国際広報メディア・観光学院でお待ちしております！

